

葉山町議会議長 土佐洋子様

御用邸の臨御橋を、現在の臨御橋を補修するのではなく、日本各地にある美しい赤い木の橋のように御用邸にふさわしい臨御橋に架け替える事によって、御用邸一帯を葉山町以外から多くの人々が訪れて来るような葉山町の名所にするための陳情

葉山御用邸の臨御橋は、一色海岸と葉山公園長者ヶ崎を結ぶ下山川に架けられた幅4メートル長さ33メートルの橋です。赤橋と呼ばれて50年が経過し、老朽化したために架け替えプロジェクトを立ち上げて2億7000万円の寄附が集まっています。

葉山町は臨御橋を鉄の欄干にして進めています、鉄にすると海の近くの橋のために塩害の影響を受けます。葉山町の担当者は鉄を木にする陳情に対して、木は技術的に出来ないと説明して不採決になりましたが、大手の建設会社や木橋技術協会や建築事務所の人達が木の橋にする事が出来ると言っています。

葉山町は臨御橋を架け替えてではなく、橋脚を鉄筋で巻いてコンクリートで壁のように補強して進めています、海の近くの橋のために鉄筋が錆びて膨張してコンクリートが爆裂している箇所があり、強度が確保出来ない恐れがあります。そして川の上に架けられている橋桁のコンクリートが剥がれてぼろぼろに落ちている状態になっており、さらに無数のひび割れを起こしているために内部鉄筋の腐食を促進しており、耐用年数がなくなっています。そして衣笠北岳断層が伸びて来て橋の両側に違う断層が通っているため、東日本大震災の時には橋に亀裂が出来たのであり、橋と橋脚の接合部が破壊されています。橋梁建設の専門家や国土交通省の担当者が言っているように、現在の橋を補修して長く通ることの出来る橋にすることは出来ないであり、50年から100年通る事が出来る橋にするためには新しく架け替え工事をしなければなりません。

葉山町が鉄の橋にして進めているのは御用邸を理解していないのであり、臨御橋は御用邸にある橋として、天照大神から続く天皇が居住する場所として日本の伝統を受け継ぐとともに伝統に合った橋にしなければならないのであり、冷たさの感じる鉄の橋ではなく温もりとやさしさのある木の橋にすることによって、御用邸にふさわしい臨御橋にしなければなりません。

日本各地には有名な木の橋があり、日光二荒山神社神橋、富士山本宮浅間大社かがみ橋、大阪住吉大社太鼓橋、京都二条城神泉苑橋、伊勢神宮宇治橋、宮島紅葉谷公園もみじ橋、厳島神社反橋など木で作った橋は、日本人にとって神聖なものであったり、心を清らかにするものであったり、心を新たにするものであったり、神社では悪魔よけになったり、木の橋は日本人の身心に良い作用をするものとして架けられたのであり、木の橋にすることによって匠の技が光る橋にすることが出来るとともに、川と海の水を感じながら心が洗われる清らかなパワースポットとして、葉山町が誇れることの出来る臨御橋にすることが出来ます。

御用邸一帯は葉山町の象徴として葉山町の最も素晴らしい場所であり、葉山町の手と山と正面に富士山を眺望する景観とともにそれと一体になった美しいデザインの臨御橋を海側に新しく架け替えて橋に通じる道を整備することによって、趣のある美しい橋が多くの人々を惹き

つけるようになり、葉山町の歴史や文化とともに葉山町の美しい自然と景観を感じ体験する事が出来るようになり、何度でも足を運びたい葉山町の各所に出来ます。

葉山町の多くの人々は御用邸の橋は木の橋でなければならないと考えており、鉄の橋が良いという人は少しかいません。臨御橋の工事は寄附で行われているためすべての人が良い橋を作って欲しいと思って寄附をしたのであり、葉山町は最良の橋を作らなければならない義務があるにもかかわらず、耐用年数が過ぎている現在の橋を架け替えないで欄干だけを赤い鉄に変えて補修をする事は、寄付をしてくれた人々や葉山町の町民はがっかりして落胆するのであり、葉山町は寄附をしてくれた人々の気持ちに応えるべきではないでしょうか。

葉山町が業者に委託した橋の調査では、現在において通行する事が可能であるというものであり、国の法定耐用年数や行政命令の根拠になっている鉄筋コンクリート橋梁の寿命は50年であり、昭和43年に架けられた臨御橋は57年が経過しており、すでに寿命が過ぎてぼろぼろになっている現在の橋を補修しても橋梁本体の耐用年数が終わっているため、何時人命にかかわる危険な事が起きるか解らないのであり、安心して長く渡る事が出来る橋にするためには架け替え工事をしなければならないことが明白であるにもかかわらず、このまま強行して進めるのであればこのようなことは誰が見ても許されない事が明らかであり、このような不法行為をしている行政に対してはすべての町民に判断を仰がなければなりません。

私たちは葉山町の将来を考えなければならないのであり、葉山町は日本各地にある素晴らしい木の橋を調査し技術のある職人や業者を探し、腐食に強い木を使って日本各地の素晴らしい赤い橋のように御用邸にふさわしい魅力的なデザインの欄干にすることによって、プレストレスト鉄筋コンクリートなど最新の技術を使って100年通ることの出来る橋にする事が出来るのであり、葉山町はどのような臨御橋にするかを全国に明らかにして広く寄附を呼びかけ、御用邸一帯が人々にとってあこがれの場所になり、訪れて来る人々に葉山町の魅力を伝えられるところにするとともに、訪れて来た人々が感動し心に残るような素晴らしい臨御橋に架け替える事によって、これから葉山町が発展していく葉山町にするために陳情します。

令和8年 2月2日

代表 葉山町一色1822番地5 豊田 豊 080-1238-5456

葉山町下山口1411-9 山崎 時彦

葉山町下山口1967 市川 靖

葉山町下山口1490 浅原 鐵夫

葉山町一色1835-2 下平 万里夫

葉山町一色1983 和田 真

葉山町一色1916 植松 徹夫

つけるようになり、葉山町の歴史や文化とともに葉山町の美しい自然と景観を感じ体験する事が出来るようになり、何度でも足を運びたいくなる葉山町の名所にする事が出来ます。

葉山町の多くの人々は御用邸の橋は木の橋でなければならないと考えており、鉄の橋が良いという人は少しかいません。臨御橋の工事は寄附で行われているためすべての人が良い橋を作って欲しいと思っ寄附をしたのであり、葉山町は最良の橋を作らなければならない義務があるにもかかわらず、耐用年数が過ぎている現在の橋を架け替えないで欄干だけを赤い鉄に変えて補修をする事は、寄附をしてくれた人々や葉山町の町民はがっかりして落胆するのであり、葉山町は寄附をしてくれた人々の気持ちに答えるべきではないでしょうか。

葉山町が業者に委託した橋の調査では、現在において通行する事が可能であるというものであり、国の法定耐用年数や行政命令の根拠になっている鉄筋コンクリート橋梁の寿命は50年であり、昭和43年に架けられた臨御橋は57年が経過しており、すでに寿命が過ぎてぼろぼろになっている現在の橋を補修しても橋梁本体の耐用年数が終わっているため、何時人命にかかわる危険な事が起きるか解らないのであり、安心して長く渡る事が出来る橋にするためには架け替え工事をしなければならないことが明白であるにもかかわらず、このまま強行して進めるのであればこのようなことは誰が見ても許されない事が明らかであり、このような不法行為をしている行政に対してはすべての町民に判断を仰がなければなりません。

私たちは葉山町の将来を考えなければならないのであり、葉山町は日本各地にある素晴らしい木の橋を調査し技術のある職人や業者を探し、腐食に強い木を使って日本各地の素晴らしい赤い橋のように御用邸にふさわしい魅力的なデザインの欄干にすることによって、プレストレスト鉄筋コンクリートなど最新の技術を使って100年通ることの出来る橋にする事が出来るのであり、葉山町はどのような臨御橋にするかを全国に明らかにして広く寄附を呼びかけ、御用邸一帯が人々にとってあこがれの場所になり、訪れて来る人々に葉山町の魅力を伝えられるところにするるとともに、訪れて来た人々が感動し心に残るような素晴らしい臨御橋に架け替える事によって、これから葉山町が発展していく葉山町にするために陳情します。

令和8年 2月2日

葉山町一色1822番地5 豊田 麗 080-1238-5456

葉山町下山口1411-9 山崎 時彦

葉山町木古庭 632-16 平泉 忠彦

葉山町一色1193-4 石川 隆雄 葉山一色 307 鏡本 洋文

葉山町 堀内 1473

荒井 喜一

葉山町 堀内 939-13

中里 子嘉

葉山町 下山口 1967

中里 扇子

つけるようになり、葉山町の歴史や文化とともに葉山町の美しい自然と景観を感じ体験する事が出来るようになり、何度でも足を運びたい葉山町の名所にする事が出来ます。

葉山町の多くの人々は御用邸の橋は木の橋でなければならないと考えており、鉄の橋が良いという人は少ししかいません。臨御橋の工事は寄附で行われているためすべての人が良い橋を作って欲しいと思って寄附をしたのであり、葉山町は最良の橋を作らなければならない義務があるにもかかわらず、耐用年数が過ぎている現在の橋を架け替えないで欄干だけを赤い鉄に変えて補修をする事は、寄附をしてくれた人々や葉山町の町民はがっかりして落胆するのであり、葉山町は寄附をしてくれた人々の気持ちに応えるべきではないでしょうか。

葉山町が業者に委託した橋の調査では、現在において通行する事が可能であるというものであり、国の法定耐用年数や行政命令の根拠になっている鉄筋コンクリート橋梁の寿命は50年であり、昭和43年に架けられた臨御橋は57年が経過しており、すでに寿命が過ぎてぼろぼろになっている現在の橋を補修しても橋梁本体の耐用年数が終わっているため、何時人命にかかわる危険な事が起きるか解らないのであり、安心して長く渡る事が出来る橋にするためには架け替え工事をしなければならないことが明白であるにもかかわらず、このまま強行して進めるのであればこのようなことは誰が見ても許されない事が明らかであり、このような不法行為をしている行政に対してはすべての町民に判断を仰がなければなりません。

私たちは葉山町の将来を考えなければならないのであり、葉山町は日本各地にある素晴らしい木の橋を調査し技術のある職人や業者を探し、腐食に強い木を使って日本各地の素晴らしい赤い橋のように御用邸にふさわしい魅力的なデザインの欄干にすることによって、プレストレスト鉄筋コンクリートなど最新の技術を使って100年通ることの出来る橋にする事が出来るのであり、葉山町はどのような臨御橋にするかを全国に明らかにして広く寄附を呼びかけ、御用邸一帯が人々にとってあこがれの場所になり、訪れて来る人々に葉山町の魅力を伝えられるところになるとともに、訪れて来た人々が感動し心に残るような素晴らしい臨御橋に架け替える事によって、これから葉山町が発展していく葉山町にするために陳情します。

令和8年 2月2日

葉山町一色1822番地5 豊田 颯 b80-1238-5456

葉山町下山口1411-9 山崎 時彦

葉山町下山口136-1 上町 智

葉山町下山口1088 鈴木 桂

葉山町一色1870 和田 優子

葉山町一色2149-7 長谷川 友子

葉山町一色1681 春日 泰宣

葉山町一色1078 桂 このみ

